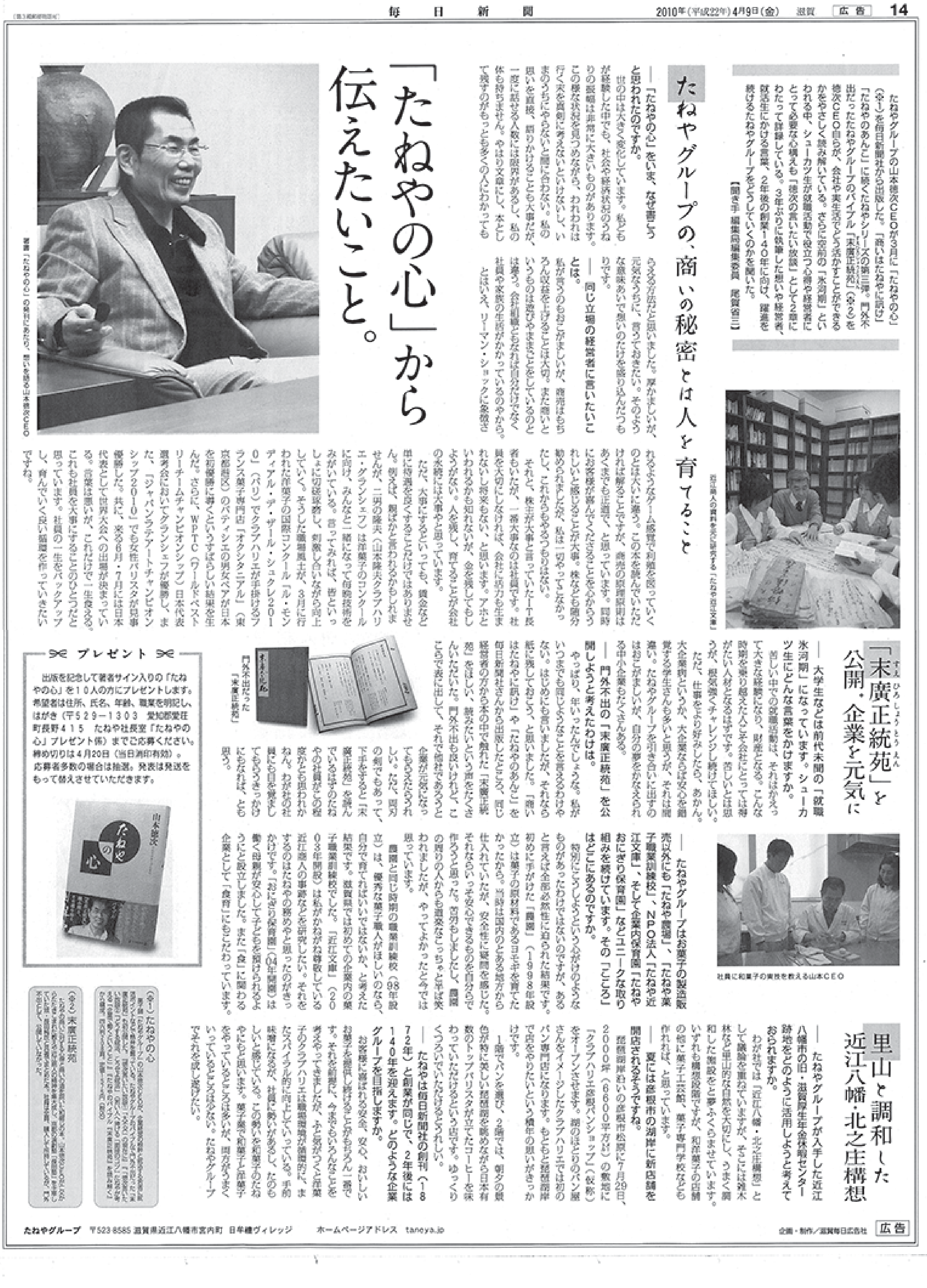
たねやグループ 掲載広告

2010年４月９日 掲載

「たねやの心」発刊



「たねやの心」から伝えたいこと。

たねやグループの山本徳次CEOが3月に「たねやの心」（※1）を毎日新聞社から出版した。「商いはたねやに訊け」「たねやのあんこ」に続くたねやシリーズの第三弾。門外不出だったたねやグループのバイブル「末廣正統苑」（※2）を徳次CEO自らが、会社や実生活でどう活かすことができるかをやさしく読み解いている。さらに空前の「氷河期」といわれる中、シューカツ生が就職活動で役立つ心得や経営者にとって必要な心構えも「徳次の言いたい放題」として2章にわたって詳録している。3年ぶりに執筆した想いや経営者、就活生にかける言葉、2年後の創業140年に向け、躍進を続けるたねやグループをどうしていくのかを聞いた。

【聞き手 編集局編集委員　尾賀省三】

たねやグループの、商いの秘密とは人を育てること

―「たねやの心」をいま、なぜ書こうと思われたのですか。

　世の中は大きく変化しています。私どもが経験した中でも、社会や経済状況のうねりの振幅は非常に大きいものがあります。この様な状況を見つめながら、われわれは行く末を真剣に考えないといけないし、いまのうちにやらないと間に合わない。私の想いを直接、語りかけることも大事だが、一度に話せる人数には限界があるし、私の体も持ちません。やはり文章にし、本として残すのがもっとも多くの人にわかってもらえる方法だと思いました。厚かましいが、元気なうちに、言うておきたい。そのような意味あいで想いのたけを盛り込んだつもりです。

―同じ立場の経営者に言いたいことは。

　私が言うのもおこがましいが、商売はもちろん収益を上げることは大切。また商いというものは遊びやままごとをしているのとは違う。会社組織ともなれば自分だけでなく社員や家族の生活がかかっているのやから。

　とはいえ、リーマン・ショックに象徴されるようなゲーム感覚で利鞘を競っていくのとは大いに違う。この本を読んでいただければ解ることですが、商売の原理原則はあくまでも正道で、と思っています。同時にお客様が喜んでくださることを心からうれしいと感じることが大事。株なども随分勧められましたが、私は一切やってこなかったし、これからもやるつもりはない。

　それと、株主が大事と言っていたIT長者もいたが、一番大事なのは社員です。社員を大切にしなければ、会社に活力も生まれないし将来もない、と思います。アホといわれるかも知れないが、金を残してもしようがない。人を残し、育てることが会社の永続には大事やと思っています。

　ただ、大事にするといっても、賃金など単に待遇を良くすることだけではありません。例えば、親ばかと言われるかもしれませんが、二男の隆夫（山本隆夫クラブハリエ・グランシェフ）は洋菓子のコンクールに向け、みんなと一緒になって何晩技術をみがいている。言ってみれば、皆といっしょに切磋琢磨し、刺激し合いながら向上していく。そうした職場風土が、3月に行われた洋菓子の国際コンクール『ル・モンディアル・デ・ザール・シュクレ2010』（パリ）でクラブハリエが手掛けるフランス菓子専門店『オクシタニアル』（東京都港区）のパティシエの男女ペアが日本を初優勝に導くというすばらしい結果を生んだ。さらに、WPTC（ワールドペストリーチームチャンピオンシップ）日本代表選考会においてグランシェフが優勝し、また、『ジャパンラテアートチャンピオンシップ2010』でも女性バリスタが見事優勝した。共に、来る6月・7月には日本代表として世界大会への出場が決まっている。言葉は悪いが、これだけで一生食える。これも社員を大事にすることのひとつだと思っています。社員の一生をバックアップし、育んでいく良い職場を作っていきたいですね。

「末廣正統苑（すえひろしょうとうえん）」を公開・企業を元気に

―大学生などは前代未聞の「就職氷河期」になっています。シューカツ生にどんな言葉をかけますか。

　苦しい中での就職活動は、それはかえって大きな経験になり、財産となる。こんな時期を乗り越えた人こそ会社にとっては得がたい人材となるはずです。苦しいとは思うが、根気強くチャレンジし続けてほしい。

　ただ、仕事をより好みしたら、あかん。大企業病というか、大企業ならば安心を錯覚する学生さんも多いと思うが、それは間違い。たねやグループを引き合いに出すのはおこがましいが、自分の夢をかなえられる中小企業もたくさんある。

―門外不出の「末廣正統苑」を公開しようと考えたわけは。

　やっぱり、年いったんでしょうな。私がいつまでも同じようなことを言えるわけやない。はじめにも言いましたが、それなら紙に残しておこう、と思いました。「商いはたねやに訊け」や「たねやのあんこ」を毎日新聞社さんから出版したところ、同じ経営者の方から本の中で触れた「末廣正統苑」をほしい、読みたいという声をたくさんいただいた。門外不出も良いけれど、ここらで表に出して、それで他社であろうと企業が元気になってもらえたらうれしい。ただ、両刃の剣でもあって、下手をすると「末廣正統苑」を読んでいるはずのたねやの社員がこの程度かとも思われかねん。わが社の社員にも目を覚ましてもらうきっかけにもなれば、とも思う。

―たねやグループはお菓子の製造販売以外にも「たねや農藝」、「たねや菓子職業訓練校」、NPO法人「たねや近江文庫」、そして企業内保育園「たねやおにぎり保育園」などユニークな取り組みを続けています。その「こころ」はどこにあるのですか。

　特別にこうしようという心がけのようなものがあったわけではないのですが、あると言えば全部必然性に迫られた結果です。初めに手がけた「農藝」（1998年設立）は菓子の原材料であるヨモギを育てたかったから。当時は国内のとある地方から仕入れていたが、安全性に疑問を感じた。それならいっそ安心できるものを自分らで作ろうと思った。苦労もしましたし、農園の周りの人からも道楽なこっちゃと半ば笑われましたが、やってよかったと今では思っています。

　農園と同じ時期の職業訓練校（98年設立）は、優秀な菓子職人がほしいのなら、自分で育てればいいではないか、と考えた結果です。滋賀県では初めての企業内の菓子職業訓練校でした。「近江文庫」（2003年開設）は私がかねがね尊敬している近江商人の事跡などを研究したい。それをするのはたねやの務めやと思ったのがきっかけです。「おにぎり保育園」（04年開園）は働く母親が安心して子どもを預けられるようにと設立しました。また「食」に関わる企業として「食育」にもこだわっています。

里山と調和した近江八幡・北之庄構想

―たねやグループが入手した近江八幡市の旧・滋賀厚生年金休暇センター跡地をどのように活用しようと考えておられますか。

　わが社では「近江八幡・北之庄構想」として議論を重ねていますが、そこには雑木林など里山的な自然を大切にし、うまく調和した施設をと夢ふくらませています。いずれも構想段階ですが、和洋菓子の店舗の他に菓子工芸館、菓子専門学校なども作れれば、と思っています。

―夏には彦根市の湖岸に新店舗を開店されるそうですね。

　琵琶湖岸沿いの彦根市松原に7月29日、2000坪（6600平方㍍）の敷地に「クラブハリエ彦根パンショップ」（仮称）をオープンさせます。湖のほとりのパン屋さんをイメージしたクラブハリエでは初のパン専門店になります。もともと琵琶湖岸で店をやりたいという積年の思いがきっかけです。

　1階でパンを選び、2階では、朝夕の景色が特に美しい琵琶湖を眺めながら日本有数のトップバリスタが立てたコーヒーを味わっていただけるという店です。ゆっくりくつろいでいただきたい。

―たねやは毎日新聞社の創刊（1872年）と創業が同じで、2年後には140年を迎えます。どのような企業グループを目指しますか。

　お客様に喜ばれる安全、安心、おいしいお菓子を提供し続けることはもちろん一番です。それを前提に、今までいろいろなことを考えやってきましたが、ふと気がつくと洋菓子のクラブハリエは販売地域が飛躍的に、またスパイラル的に向上していっている。手前味噌になるが、社員に向上心があって、たのもしいと感じている。この勢いを和菓子のたねやにもと思います。菓子業界で和菓子と洋菓子をやっているところは多いが、両方がうまくいっているところはない。たねやグループでそれを成し遂げたい。

著書「たねやの心」の発刊にあたり、想いを語る山本徳次CEO

近江商人の資料を元に研究する「たねや近江文庫」

社員に和菓子の実技を教える山本CEO

門外不出だった「末廣正統苑」

✂ プレゼント ✂

出版を記念して著者サイン入りの「たねやの心」を１０人の方にプレゼントします。希望者は住所、氏名、年齢、職業を明記し、はがき（〒５２９－１３０３　愛知郡愛荘町長野４１５　たねや社長室「たねやの心」プレゼント係）までご応募ください。締め切りは４月20日（当日消印有効）。応募者多数の場合は抽選。発表は発送をもって替えさせていただきます。

（※1）たねやの心

[illegible]

（※2）末廣正統苑

[illegible]